

《高女グローバル研修 in USA Day7 (12月14日) 報告書》

Who is a RAINMAKER?? 雨女は誰だ！ここまで何だかんだで天気には恵まれていたような気がするのですが、Why today??なかなかの振りっぶりの中ボストン班別研修はスタートしました。(不憫・・・)ただし雨のお陰か気温は高め。そして午後近くにはほぼ降りやんだことを考えると、やはりボストンの天気は私たちに味方をしてくれたようです。

日本出発前から脅していたので、Red Line ユーザーの生徒さんたちはこの週末を戦々恐々として迎えました。メンテナンスのため的一部区間運休。週末のみの措置です。運休区間はどうかという、ひたすら早足で歩く、、わけではなく代替のシャトルバスが走ります。加えて週末はバスも電車も間引き運転となりますので、ここに来ての緊張感も高めです。8:30 から待機をしている引率陣。続々とやってくる高女生たち。あるペアは「1時間半前に着きました」ん??なぜ??恐るべし高女スタンダード。いずれにしてもそこそこハードル高めな今朝の集合も難なくこなし、時間通りにスタートです。本日のタスクは3つ。

- ・安全第一 (様子を見て行程変更もあり。何かあったら最後の瞬間まで待たずに電話。Safety First)
- ・渾身のグループ写真を撮る (誰かに撮ってもらおう。ただし頼む相手はくれぐれも見極める。Safety First)
- ・腹の底から楽しむ (High five! でもはしゃぎすぎには注意! Safety First)

昨日の日記には、やはり語学学校最終日について、そして松川原さんの講演についての思いが書き連ねられていました。

「もっと ELC にいたかった。」「せっかく慣れてきたのに」というのは 41 人いれば 36 人くらいは抱いた思いではないでしょうか？(数えたわけではありません。一般論です) 時間は有限、そして誰にとっても平等に流れるものと感じた 1 週間であったと思います。日記の文面からはまだ自分に対するもどかしさを吐露する生徒さんも。まだ研修は終わっていません。自ら動けばいくらでもチャンスがあります。どうかやらなかった後悔は残して帰りませんように。

松川原さんの講演については、全員が触れていました。「自分に自信がない」「失敗、周りの目を気にして一歩が踏み出せない」といったコメントも少なからず見られます。これほど優秀な生徒さんたちなのに。松川原さんの言葉をお借りするならば、「人との比較ではなく自分軸で物事を捉える」ようになれば良いですね。グローバル研修はただの語学研修ではありません。アメリカに来てまで日本人とのセッションの多さに疑問を抱く方もいるかもしれませんが、アウェイな環境の中で自分自身と向き合っている今だからこそ、「いい話を聞いた」などという感想ではなく深く胸に刻み込まれ、そして高校生のこのタイミングだからこそ次に繋がっていくと信じています。

さて、場所を戻してここは Park Street Station。再集合 16:00 の 30 分前から続々とグループが戻ってきます。顔には笑顔、両手にお土産を抱えて。

最後のグループも Park Street Church の鐘が 16:00 を告げる頃、微妙にはぐれてしまったという 2 人が猛ダッシュで合流。うーん、、ぎりぎりセーフ! としました。

明日のニューヨーク出発へ向けての注意事項の確認。そしてそれぞれ家路につきます。

最後のファミリーとの夜、思う存分楽しむのだよ。

荷物と、「ありがとう」の気持ちを言葉で伝えることを忘れずに。



1 班：ニューイングランド水族館



2 班：ボストン公共図書館 feat. lovely kids



3 班 : Duck Tour



4 班 : フェンウェイパーク



5 班 : ポストン茶会事件博物館



7 班 : ニューベリーストリート



6 班 : ポストン美術館



8 班 : ポストン公共図書館



全員揃って「ありがとう！ポストン！」